

深浦町は、世界自然遺産「白神山地」や十二湖などの雄大な自然に恵まれ、かつては北前船の風待ち湊として栄え、上方文化に関する多くの史跡を有しています。この美しい景観や里山、田畑からの恵みは、集落の人々によってつくりられ、維持されてきました。しかし、人口減少や少子高齢化、空き家の増加、担い手不足などの影響により、景観の維持や自治会の活動は縮小傾向にあります。

町では、地域の課題を住民自らが見つけ、主体的に集落対策を実施するための手助けとして、今後集落支援員制度を導入することとしています。このきっかけとなったのは、令和5年7月に行政連絡員を対象に実施した「集落支援員の設置に関する意向調査」で、回答者のほとんどが「地域の困りごとを解決するための集落支援員の設置は有効である」と述べたことです。

令和6年度からは県の伴走支援事業を受けながら、アドバイザーとの意見交換や先進地調査を経て、2月16日(日)に住民向けのワークショップを開催することとなりました。このワークショップでは、弘前大学大学院地域社会研究科の平井太郎教授が講



講師より説明を受ける参加者

ワークショップ内で「地域の5年後はこうあってほしい」というテーマにおいては、人口増加、企業誘致、働く

師及び進行役を務め、深浦町の中でも高齢化率や人口減少率が顕著な岩崎地区(ふれあい創造の館)で開催されました。そこには、同地区の総代や地区の役員ら44人が集まり、安全・安心に楽しく暮らせる地域の実現に向けて、地域の現状や将来像について意見を交わしました。



成果を記念撮影

集落支援員制度の導入は、地域の活性化に向けた大きな一歩となると思います。地域の様々な課題に向き合

場の確保、若者定住、医療の充実、公共交通機関の整備、十二湖の観光振興といった意見が出されました。町では、令和7年度から本格的に集落支援員制度を導入するため、専任の集落支援員を配置し、岩崎地区をモデル地区とした実証事業を実施することとしています。



付箋やシールで意見まとめ

**集落支援員は何をする人?**  
町から委嘱を受けた集落支援員は、地域の困りごとや悩みごとなどの課題に対し集落点検の調査などを行い、地域住民の課題解決に向けた話し合いや検討会の場を支援します。

い、住民の皆さんが安心・安全な暮らしを築いていくために、地域の皆様と共に良い地域づくりを進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。  
なお、集落支援事業については、今後の事業の進捗に応じて広報紙にて情報提供してまいります。

## 深浦中生徒、算数・数学の自由研究作品コンクール青森県最優秀賞を受賞!

算数・数学の自由研究作品コンクールにおいて、深浦中学校3年の三上月(みかみゆづき)さんが青森県最優秀賞を受賞しました。三上さんの作品は「今年の顔に隠された秘密!？」というテーマで、人が美しいと感じる黄金比や白銀比を用いて、東京都知事選の上位4名や紙幣に記載されている人の顔の分析・研究しました。

三上さんは「黄金比、白銀比は中学校で習わないので、自分で調べるのが大変だった。初めての参加でまさか最優秀賞に選ばれるとは思っていませんでしたので驚いたけど、頑張ってきたからとても嬉しかった」と受賞の喜びを語りました。



## 深浦町・新郷村 ふるさと産品の学校給食相互交流!



特産品を味わう深浦町と新郷村の児童たち(上:深浦小学校 下:新郷小学校)

深浦町と新郷村による学校給食を通じた特産品の交換事業として、深浦町から「ふかうら雪人参スムージー」が新郷村へ、新郷村から「飲むヨーグルト」が深浦町へと、それぞれの小中学校の学校給食に提供されました。

昨年12月、新郷村から提供された「飲むヨーグルト」を飲んだ深浦小学校6年の齊藤陽希(はるき)くんは「もともとヨーグルトが好きだけど、新郷村の飲むヨーグルトも濃厚で飲みやすかった。今度、新郷村に行った時は家族みんなで飲みたい」と喜んでいました。

また、新郷村では2月に深浦町から「雪人参スムージー」が提供され、新郷小学校3年の小沢琳香(りんか)さんは「おいしくてびっくりした。このようなニンジンが食べられる深浦町の皆さんは幸せだなと思います」と雪人参のおいしさに驚いていたようです。

この事業は、コロナ禍前に県内の首長が集まる会議があった際、櫻井雅洋村長が、当時の吉田満町長に「お互いのふるさと産品で交流事業を行いたい」と呼びかけたことがきっかけで行われました。両町村の子どもたちは、普段なかなか口にすることのない他町村の特産品をおいしそうに味わいながら、お互いの町村について学んでいました。

## コミュニティ(宝くじ)助成事業助成金で備品を整備しました

この事業は、(一財)自治総合センターが宝くじの社会貢献広報事業として、地域が行うコミュニティ活動の更なる推進を図るための備品などを整備するもので、これにより地域社会の健全な発展と住民福祉の向上が期待されます。

このほど、令和6年度コミュニティ助成事業に採択された麴木自治会が、地域のイベントや清掃活動で使用する備品を、宝くじの助成金で整備しました。



### 今回整備された備品

#### ○麴木自治会

- ・車いす: 1台 ・車いす用スロープ: 大2、小1台
- ・スロープジョイント台: 1台 ・パソコン本体: 1台
- ・液晶モニター: 1台 ・マウス: 1個 ・キーボード: 1個
- ・マウスパッド: 1枚 ・プリンター: 1台 ・刈払機: 3台
- ・ポータブル電源セット: 1セット
- ・ソーラーパネル: 6枚 ・収納バッグ: 1袋

